

## 市長に聞いてみよう

の花エコ・プロジェクトのことを知りましたが、詳しく教えてください。

**市長** 早速難しい質問ですね(笑)。21世紀は環境の時代と言われているように、非常に関心の高いテーマだと思います。田原市は、自然が豊かなんですけれど、汐川や三河湾の汚染とか、最近の気候変動などを、皆さん心配していると思います。そこで、菜の花エコ・プロジェクトは、皆さんと楽しく環境問題に取り組みようと思っただけです。まず、荒れつつある農地を整備して種をまき、菜の花を見て楽しんで、今度は菜種から搾った油を学校給食などに使います。使った油は自動車の燃料にリサイクルしたり、石けんを作ったりできます。それから、油の残りは肥料にも使えます。そうすると、土地も環境も良くなりますね。こんなふうになりサイクルのことを市民の皆さんと一緒に考えていこうということなんです。実は、汐川が日本一汚い川になったことがあったんです。これではいけないと、市で下水道を普及させたり、畜産農家の皆さんや各企業にもご協力いただいたりして河川浄化に取り組んできたんですが、そうした皆さんの取り組みの中から、こういったアイデアが出てきたのです。

**筒井** 菜の花油の燃料は公用車に使われると聞いたのですが、一般の家庭

でも使われるようになるのですか？

**市長** 菜の花畑で採れる油だけでは量が少ないので、今後は皆さんと一緒に環境問題に取り組むために、ご家庭で使われた食用油も、プロジェクトの一環として回収して燃料にしようと考えています。それでも、その燃料を全体で使うとなると、量が足りないでしょうね。だから公用車のほかに、ぐるりんバスに一部使えたらなあ、と思っておりますけどね。

**筒井** 菜の花エコ・プロジェクト以外にも、環境への取り組みってあるんですか？

**市長** そうですね、この渥美半島は風が強く、冬でも太陽がキラキラしてますぐ、こうした風の力や太陽光をエネルギーに変えて、二酸化炭素(CO2)を減らそうとやっております。すでに市役所とか、文化会館とか、東部中学校などにも太陽光発電をつけていますね。蔵王山の風力発電は展望台で使うほかに電力会社に電気を売っていて、年間700〜800万円もらっているんですよ。それに、市で補助している住宅用太陽光発電を付けているお宅も、170軒くらいあって、みなさん喜んでいらっしゃいます。

**筒井** CO2はどれくらい減っているのですか？

**市長** そうですね、太陽光や風力による発電が市の施設で年間100万

kWhくらいですが、これをCO2に換算すると、670トンになりま

すね。これはどれくらいかというところ、石油をドラム缶1300本削減したことと同じなんです。けっこうすごいことなんです。それにね、今度臨海に民間の会社が11基の風力発電を建てるんですよ。この風車の羽根部分は直径が8メートルもあって、11基そろって田原市の一般家庭が使う電気を全部まかなえてしまうほどなんです。こんなふうにならなく環境問題を考えながら、もっともっと普及していくといいなあ、と思っております。

**筒井** ありがとうございます。

**市長** はい、ありがとうございます。皆さん、お茶を飲んで、もっとリラックスしてくださいね。

**小林** 赤羽根中学の小林です。よろしくお願ひします。

**市長** はい、よろしく。

**小林** 合併して、今後の赤羽根地域についていると気になるのですが、その中でも給食のことを聞きたいです。今、給食は自校で作っているのですが、これからはどうなりますか？

**市長** 給食のことは、合併協議でもよく話題になりました。できれば自校方式をこのまま残してほしいという話もありますね。もちろん、お互いに慣れたことが良いという気持ちもあるでしょう。それで、いちど赤羽根地域の方、関係の方にも給食センターの給食を体験していただけたらと思います。給食センターも決してまずいわけではありませんが、自校方式に比べて教育効果が低いということもないような気がいたします。給食センターは単価が非常に安いですが、市全体の一体感も考える



あさみ つつ井 麻未さん

田原中学校3年生

田原市のことをよく知っているおじいさんのような人だと思いました。最初は緊張したけど、楽しく話すことができました。